

### 静岡海岸への避難階段設置

近年の豪雨被害で次第に海岸本来の姿を取り戻してきた静岡海岸。海岸線には太平洋自動車道が設けられ、海岸保のため定期的に自治会等の清掃が行なわれており、夏には海辺（べり）と称して各種の行事も開催されている。

海岸美化の盛んな右岸部、東西大谷の皆さんから寄せられていた海岸からの避難階段の設置。国道一五〇号バイパスと波打ち際の高低差が著しい静岡海岸では、これまで、緊急時迅速に避難すべきという対策が進められていなかったため、東日本大震災以来、順次こうした処置が取られている。大谷地区東側、中島地区などからも同様の要望が寄せられており、今年度も更なる整備を求めていく。



■大谷海岸に新設の避難用階段

### 丸子川堆積土砂の掘削

毎年のように寄せられる河川の底に溜まった土砂の掘削要望。今回は長田地区のほけ中央を流れる丸子川で、近年の集中豪雨に備えて概ね六七㎝/時の雨水排水を完成しており、この地区ではかつての住宅水の反発から、堆積土砂への対応には多くの住民が関心を寄せている。



■丸子川の現況視察(3月17日)

流から下流まではほぼ全域に及ぶが、今年度予算の獲得と優先順位の選定にあたって、相坂は、県土木事務所の専門職員に同行を依頼し、地元自治会、市議の方々と協力いただき、三月十七日現場調査を実施した。行程は最下流の水門から御前橋までの延長約七㎞で調査は進め。

土砂堆積の現象は想像以上で、中には堆積したから樹木が成長しているところまで見つかり、土砂掘削などの維持管理の不足が明らかとなった。また、護岸工事でよる土砂崩れへの対応、曲線箇所では水流によって河床が深く掘り下げられている等、基礎工事による補強の必要性も認識された。

### 視察報告

### 戦没者慰霊碑への訪問

### サイパン・テニアン島

一九四五年二月の東京大空襲



■サイパン・テニアン島日本人慰霊碑

広島、長崎に同年八月に投下された原子爆弾。いずれも爆撃機B二九によつて、それはこのテニアン島から飛び立ったものだった。あの戦争で多くの日本人兵士が犠牲になったのが、東部アジアの群島における戦場だ。当時の戦闘機の飛行距離では、この一帯が本土の直接爆撃を可能する要衝地であったからだ。

### 自民党看護を

### 考える議員連盟

### 医療現場を視察

近年、医療従事者の人材不足が指摘されており、県政においても重要な課題となっている。自民党看護を考える議員連盟では、二月十九日この現状を視察して、原因とされる業務実態や勤



■看護連盟の皆さんと医療現場を視察

務環境、医療ニーズの多様化による制度変更等について調査、課題を明らかにした。各県議が地元医療施設の現場視察を行ったのは今回が初めて。既に十年以上も前から医師の偏在が指摘され、夜間救急の輪番制の維持が課題となってきた清水区では、厚生病院における医師の激減、施設利用の難しさをのぞいた現状が見受けられ、清水区北部における医師不足の実態に触れた。続いての訪問先は、テニアン島では、「施設が在宅へ」「医療から介護へ」を目指す国の方針に沿って、急速に整備が始まった在宅看護の実態を調査。新たな制度が創られる過程でどのような課題が発生しているか、整理することになった。

## 学力向上の鍵は生活の中にある

### 全国学力学習状況調査

昨年度行われた全国学力学習状況調査で、小学生の国語、知識の分野で全国ワースト一位という結果となった。以来、知事と県教育委員会との間では、教委事務局のあり方や授業内容の改善、教員の指導力が争点となり、私たち市民層では、親学の推進を図る条例の検討に着手するとともに、県議会本会議では補助教材の選定方法が取り上げられた。

子ども達の学力をいかに伸ばしていくかという視座で考えれば、知事が主張するように、優秀な教員が学校の教育現場から離れて教委の事務仕事に専事するという事は非効率である。そして、平成二十六年年度予算においては、子どもの学力向上を狙って、学費を支援する非常勤講師の配置に約三億円が計上、可決された。更に児童、生徒の学力定着に大切な反復練習用などの補助教材は、現場教員の意見や子ども達の習熟度の分析を通じて選定されるべき事が確認され、今年度は教材選定方法の徹底を図ることとなる。

さて、本県のこうした議論とは別に、この調査で毎年全国上位に登場する県がある。秋田県である。一人ひとりの児童・生徒の学力分析にいち早く取り組んだ成果と言われるが、近年は違った評価がなされているようである。秋田県や福井県を、児童・生徒の学力上位県では、意外にも熟通している子ども人数は極めて少ない。私立学校の普及が目立っている訳ではないため、宿題や勉強一色の児童層を過ぎていて、という訳でもなさそうだ。さて

本県との違いは何だろうか。幼児期からの詰め込み教育、受験型教育をまねく嘲笑うように答える生活の中こそあるようだ。画題の特徴は、核家族化が進んでいる点にある。農家が多い土地柄が、家族構成は三世同居が当たり前、生活リズムが安定、朝食をちゃんと食べている子どもが多い。これはつまり、子ども達の生活リズムや変化に大人たちの目が常に届いている。ということではないだろうか。昔ながら

### 新鮮な海産物の地産地消

### 用宗漁港、市場活性化への挑戦

昨年九月二十日、用宗漁港で定期的開催されている『なぎさ市』に伊豆産のサザエが並んだ。県庁が地産地消を掲げながら、県内水産物の多くは、水揚げ後仲買業者から東京築地へと取引されている。

昨年八月、用宗のシラス漁に私は初めて参加した。早朝日の出前から出発。漁船三隻が連携する漁法で、この日は二十七回、計五十四隻が駿河湾近海の漁場を網を引いた。ご承知の通り、近年のシラス漁では好調、不調の差が激しく、この日は残念ながら芳しい成果が上がらず、予定よりも出荷収入を減らした。一定以上の量が見込めなければ、高騰するカニ時代、つまりコストをカバーできないから、シラス漁では、網元といわれる漁船の所有者と被雇用の漁師、計七人が一同に参加するのが一



■用宗漁港でのシラス セリ市場

般的で、それぞれが受け取る報酬は、全その日の漁獲量によって決まる。不漁が続けば生活を直撃するの現実だ。そして、禁漁期ばかりでなく不漁の日々にも、若い漁師たちが別の収入を求めアルバイトをこなしているという話にも触れること、職業としての一次産業のあり方について、急務の課題があること



■下関市・瀬戸市場魚売所

を知ったのである。漁港は市場である。獲った魚を取引する場であり、消費者へと続く入り口である。しかしながら、漁獲のほとんどは築地へと運ばれる。考えてみれば、市内飲食店でも獲れたての天然の魚を口にすることは、稀な事だったのだ。地元いながら実際に東京経由の運搬付までをも消費して、ということもある。必要なのは、流通の簡素化による地産地消の実現であり、そのための生産、流通、消費を結ぶ新たな地元主体のネットワーク構築はないだろうか。県内の海産物は、〇〇魚種にも上り豊富な水産資源がもつて地元PRに活用されるべきである。

折しも用宗漁港は、冷蔵施設の耐震補強で建替えの機運が高まっており、漁業関係者の津波避難タワーの整備も予定されたところである。この耐震補強による新施設は、強化された市場機能、県内海産物の直売所等を入れ込み、市内飲食業者が集まって賑やかに取引する姿を目撃した。

議会の場合において、議論がなされているところ。今後は、要望書に整理された事項と現場の様子とを一致させながら、より建設的な議論を経て予算確保へと繋げたい。尚、今回の視察調査を通じ、看護連盟の皆さんからは、予算要望の時期や制度変更の節目などを活用して、より緊密な議員連盟との意見交換、連携を望む声もいただけており、迅速で丁寧な対応を心掛けていこうつもりである。

## 意見・要望受付

県政、市政、お住まいの地域のことなどについて、意見・要望・疑問等ございましたら、お気軽にお寄せ下さい。

★facebookにて近況をお知らせしています。こちらものそいでみてください。

## 相坂摂治事務所

〒421-0115 静岡市駿河区みずほ4丁目3-13  
アメニティみずほ102号  
TEL&FAX: 054-258-4778  
E-mail: aisaka@ka.tnc.ne.jp

### 相坂せつじのラジオで静岡AIPRESS

昨年11月から開始した県政報告ラジオ「静岡アイプレス」。シテイFM(76.9MHz)で毎月第一月曜日午前10時00分から放送。県政の動きをお伝えすると共に、相坂の政策提言を紹介しています。

<b>■第1回 11月4日放送</b> ①議員活動について ②富士山の世界文化遺産登録と今後の展望 ③静岡県の学力 ④中小企業受注機会増大促進条例の制定について	<b>■第4回 2月3日放送</b> ①静岡の景気動向について ②今年の抱負、優先的政策について
<b>■第2回 12月2日放送</b> ①サイパン・テニアン視察報告 ②決算特別委員会の報告 ③草薙総合運動場の整備について ④国家戦略特区について ⑤津波対策について	<b>■第5回 3月3日放送</b> ①フィリピン視察、下関漁港視察の報告 ②静岡県総合計画の集中審議について ③厚生委員会の現場から(少子化、医師不足、生活保護など)
<b>■第3回 1月6日放送(ゲストに浮月楼の久保田隆社長をお迎えして)</b> ①新年の挨拶 ②静岡市の観光戦略について ③徳川家康公を活かしたまちづくりについて	<b>■第6回 4月7日放送</b> ①地震津波対策の新たな動き ②中央リニア新幹線への意見について ③平成26年度当初予算について

■相坂せつじのラジオで「静岡 AI PRESS」毎月第一月曜日 10時～10時15分

※過去に放送した番組は、「静岡AI PRESS」で検索が可能です。

**76.9 FM.Hi!**

<b>■略歴</b> 1973(昭和48)年生まれ。40歳。静岡市立長田南小、城山中、県立静岡高校から明治大学法学部卒。海口病院勤務を経て1999年25歳最年少で静岡市議会議員初当選。2011年市議会3期目任期中に静岡県議選に立候補、初当選。	<b>■役職</b> 厚生常任委員会 副委員長 静岡県医療審議会 副会長 自民党静岡県連 青年局長 自民党静岡県連 遊説部長 自民党静岡県連厚生問題連絡協議会 事務局 県議会拉致問題の早期解決を図る議員連盟 事務局 拉致被害者を救うブルーリボンの会静岡 代表 静岡大学法科大学院支援協会 常務理事 一般社団法人静岡青年会議所 2013年度副理事長 長田地区活性化協議会 会員 静岡ライオンクラブ 会員 社会福祉法人愛誠会 理事 など	<b>■著書</b> 【日本平DC構想】(共著) ■歴任 静岡市議会 議会運営委員会 委員長 静岡市議会 総務常任委員会 委員長 自民党静岡県連 青年部長 自民党静岡市静岡支部 政調会長 など
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 地域の独自性を発掘して人集めを...

口にするのは簡単だが、人が集まる仕組みは経済である。今後は伊豆で獲れた豊富な海産物を用宗に運ぶ手段を、海上と通はれる。考えてみれば、市内飲食店でも獲れたての天然の魚を口にすることは、稀な事だったのだ。地元いながら実際に東京経由の運搬付までをも消費して、ということもある。必要なのは、流通の簡素化による地産地消の実現であり、そのための生産、流通、消費を結ぶ新たな地元主体のネットワーク構築はないだろうか。県内の海産物は、〇〇魚種にも上り豊富な水産資源がもつて地元PRに活用されるべきである。

## JR安倍川駅 改装工事いよいよ開始

現在、安倍川の一日の利用者は約九〇〇人。平成十八年に施行されたバリアフリー新法により、一日三千人以上の利用がある鉄道駅に活用されるべきである。



■安倍川駅 完成図

駅の改修が義務化された。階段が急で長、屋根がない、エスカレーターエレベーターが欲しい、ホームが狭い、車いすの利用が不便、駐輪場が暗くて怖い、自転車、駐輪場が狭い、駅前広場がバスの乗り入れもできないなど、寄せられてきた声は多岐に渡る。その後、調査や地元勉強会、再整備に向けた検討会等が行われ、平成二十三年には安倍川駅周辺バリア

## フリー基本構想を策定、東口広場東西自由通路の整備が都市計画決定された。

昨年十月から準備工事が始まり、平成二十七年年度中の完成を目指す、いよいよ今年一月から橋上駅舎の改築工事に着手。完成すれば、階段も拡幅され緩やかになり、エレベーター・エスカレーターも設置、ホームの拡張、東西バリアフリー・トイレも完備、駐輪場との連絡通路も繋がる。工事進捗によって周辺道路の交通規制(二方向通行)が変更になるため、安全な工事のためには皆さんのご理解と協力が必要。

今後は、駐輪場の増設と監視カメラの設置、バス路線の開通、線路沿いの歩道設置にアクセス道のバリアフリー化、更には交番の新設まで要望があり、これら課題の解決へ向けても、まだまだ一層の取り組みを続けていく。

## 貯水管理施設で浸水対策 下川原地区

平成十五、十六年の連続集中豪雨で下川原地区では延べ五〇〇戸に浸水被害が発生した。以来、市では浸水対策プランを立ち上げ、水門の修繕や下水道の再整備などを



■H15の下川原浸水被害

進めてきた。そして今回国道一五〇号線の直下七十一mに、半径四m、延長一〇〇m、貯留量三二〇〇m<sup>3</sup>(半校の約三約三三杯)の雨水貯留を埋設する工事が始まり、丸子川橋下の交差点から南安倍川橋の交差点へとなり、長田浄化センターから丸子川へ放流する。取雨水幹線からこの雨水幹線、五取雨水幹線から二河川留置へ取水、六七㎝/時の雨量に対応した丸子川を補充して大雨に備える。総事業費は約二十九億円。平成二十七年年度完成予定。

### 中島学区への交番設置

県議に選出された中島学区から要望をいただいたいた交番の新設。近年、県内の軽犯罪件数は減少傾向で改善が進んできたが、地域の治安には課題が多いのも事実で、静岡南警署では複数の交番機能があり、市内に配置されている交番はいずれも手狭で、備地はまだまだ足り、老朽化が顕著な交番が必要など、ご要望が寄せられている。今回新設する場所では中島小学校に隣接する旧一五〇号線沿いで、元々は市の所有地。これを県有とするために、市が県から借り受けている土地を譲り渡し、財政当局間で等価交換してもらったことで、漸く実現に至った。

行政の財産管理が一元化されていけば、もっと早く整備できたのではと感じており、これを機に相坂は、県市間で土地情報の一元管理を提言、相互利用の促進を図ろうとしている。

新設する中島の交番は、今年度整備に着手し来春の完成を予定している。